

MRI についての説明と注意事項

MRI 装置は生体に静磁場、傾斜磁場、電磁波を与え、生体からの電磁波を受信することにより断層画像を作成する装置です。従いまして、撮像に伴う放射線被ばくはありません。



(2022 年 6 月 1 日写真更新)

【撮像時の注意事項】

- 1 MRI 装置は非常に強力な静磁場を常時発生しています。そのため、金属などの磁性体物質を検査室に持ち込むことはできません。MRI 装置の部屋に入る前には、以下のものを体から外し、検査室に持ち込まないでください。
 - 腕時計、金属付ベルト、硬貨、鍵、眼鏡、指輪、ピアス、ネックレス、ヘアピン、金属付ヘアゴム、ファッション用カラーコンタクトレンズ
 - ・ 金属粉の含まれる化粧品（マスカラ・ネイルケア用品）
 - ・ キャッシュカード・クレジットカード類、その他の金属や磁気情報を持つもの。
(不明な場合は、現場の MRI 実験・実習責任者に相談ください。)
- 2 以下の方は、金属などの影響により評価に耐えうる画像が得られない場合や、ご本人に危険を及ぼす可能性があるため、被験者にはなりません。
 - ・ 妊娠中の方
 - ・ 過去に大きなけがや病気、手術の既往があり、体内に金属やチューブ等を埋め込んでいる方
 - ・ 心臓ペースメーカーを装着している方
 - ・ 総義歯、歯を矯正中の方
 - ・ 永久的な刺青のある方
 - ・ 微細金属片を偶発的に体内に取り込んでしまっている方
- 3 MRI の撮像に際しては、体をベッド上にベルトで固定してトンネルのような狭い空間に入っていただきます。暗いところや狭いところが苦手な方（閉所恐怖症の方）は事前に申し出てください。
- 4 MRI の撮像中は、磁場の高速変化の影響により発生した微細な電流が神経を刺激する場合があります。非常にまれではありますが、眼瞼がピクピクと一時的に痙攣したり、手指が自分の意志に無関係に動いたり熱感を覚える（体が熱くなる）可能性があります。これらの影響は、多くは一時的なもので危険はありませんが、心配な場合は現場の MRI 実験・実習責任者に相談ください。
- 5 MRI の撮像中に気分が悪くなった時、撮像を中止してほしいと思った時には、手元のブザーを押してください。すぐに撮像を中止します。医師の診察が必要と判断された場合は、速やかに近隣の医療機関へ連絡し対応いたします。
- 6 本研究は、医学的な診断を目的とするものではありません。得られた画像の病的所見についてはお伝えすることはできませんのでご承知おきください。